

SR-S208TC2 V11.00 変更内容一覧

□機能追加

No.	項目	内容
1	IPv6ホスト機能	IPv6ホスト機能をサポートする。
2	SNMP 64ビットカウンタサポート	SNMP V2c/V3で64ビットカウンタをサポートする。
3	show tech-support機能追加	現行での表示内容を詳細表示(detailオプション)とし、表示内容を簡易化する。
4	ループ検出機能追加	ループ検出時にリンクダウンではなく、ポートをBlocking状態にする機能を追加する。また、認証ポートでループ検出機能が動作できるようにする。
5	MACテーブルフラッシュ機能	特定のMACアドレスの学習状態を監視し、ポートムーヴが発生した際に該当ポートのMACアドレス学習テーブルエントリをクリアする機能をサポートする。
6	リンクダウンリレー機能追加	1. 他のポートのリンクアップに同期して、ポートを閉塞解除させる機能を追加する。 2. リンクアグリゲーション単位でのリレー動作もサポートする。
7	802.1X認証機能追加	1. RADIUSサーバ無応答時に認証を成功させる機能を追加する。
8	Web認証機能追加	1. RADIUSサーバへの問い合わせ時に、ID/パスワードをPAPで送信できる機能を追加する。 2. RADIUSサーバへの問い合わせ時に、NAS-Portを付加する。 3. RADIUSサーバ無応答時に認証を成功させる機能を追加する。
9	MACアドレス認証機能追加	1. RADIUSサーバへの問い合わせ時に、ID/パスワードをPAPで送信できる機能を追加する。 2. RADIUSサーバへの問い合わせ時に、NAS-Portを付加する。 3. RADIUSサーバ無応答時に認証を成功させる機能を追加する。
10	ARP認証機能追加	1. RADIUSサーバへの問い合わせ時に、ID/パスワードをPAPで送信できる機能を追加する。 2. RADIUSサーバへの問い合わせ時に、Framed-IP-Addressを付加する。 3. 認証保持時間を失敗時と成功時で設定可能とする。 4. システムログにIPアドレスの表示を追加する。 5. RADIUSサーバ無応答時に認証を成功させる機能を追加する。
11	DHCP MACアドレスチェック機能追加	1. RADIUSサーバへの問い合わせ時に、ID/パスワードをPAPで送信できる機能を追加する。 2. RADIUSサーバ無応答時に認証を成功させる機能を追加する。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V01.00~V10.01	copyコマンドで本体内の構成定義をCFにコピーしたとき、CFに空き容量がない場合のエラーメッセージが表示されない。
2	V01.00~V10.01	show interfaceにてVLANが定義されていない無効なLANインタフェースが誤って"protocol vlan"と表示される。
3	V01.00~V10.01	不当なIPアドレス/MACアドレスをインデックスとして指定時、期待するMIB値が取得できない。IPアドレスはxxx.xxx.xxx.xxx (xxxは255以内)、MACアドレスはxx:xx:xx:xx:xx:xx (xxは0x00~0xffの16進数)の形式で指定されるが、不当なインデックスとはxxxが256以上の値を指定されることを指す。
4	V01.00~V10.01	OID指定値が符号なし32ビット最大値(4,294,967,295以上の値)を超えた場合、期待するMIB値が取得できない。
5	V01.00~V10.01	書き込みをサポートしていないMIBの書き込み時にシステムダウンが発生する。
6	V01.00~V10.01	認証ポートからループ検出パケットが送信できない場合がある。
7	V10.00~V10.01	ARP認証にて通信妨害設定が有効かつ認証結果保持可能数(250)を越えて接続された状態でシステムハングが発生する場合がある。
8	V10.00~V10.01	IEEE802.1X認証にてEAPOL許容MACアドレスを設定しVLAN ID=4094を使用した場合に認証に失敗する場合がある。
9	V03.00~V10.01	自装置が送信したLACPDUフレームを受信するとLAインタフェースのDOWN/UPを繰り返す場合がある。
10	V01.00~V10.01	時刻同期処理中に時刻同期関連の設定項目を変更して設定反映を行った場合に、設定が反映されない。
11	V01.00~V10.01	意図しないタイミングで時刻同期処理が動作する場合がある。 【現象1】定期的に時刻同期を行う定義で動作中に「clear nettime statistics」でNETTIMEクライアントの統計情報をクリアすると、予定より早く時刻同期処理が開始される。 【現象2】時刻同期処理中に構成定義を変更してcommitした場合に時刻同期処理が中断されない。
12	V01.00~V10.01	Windowsのフリーソフトウェア UTF-8 TeraTerm Pro with TTSSH2 を使用してsshログインを繰り返すとシステムダウンする。
13	V01.00~V10.01	STPをDisableからEnable(RSTPまたはMSTP)に定義変更すると、通常のSTPのBPDUが出力される場合がある。
14	V01.00~V10.01	stp mode rtsp時にルートブリッジで受信したTopology Change flag付きBPDUがトリガー送信ではなく定期送信となっているため通信再開に時間がかかる場合がある。

15	V03.00～V10.01	メッシュ構成で動的にstpのmodeを変更するとloop状態となるタイミングがある。
16	V01.00～V10.01	MSTP動作時にforce-version設定によりRSTP動作しているポートの収束が遅い。
17	V10.00～V10.01	telnetあるいはsshで本装置に接続しているとき、コンソールから脆弱パスワード(8文字未満あるいは英字のみあるいは数字のみ)でログインすると、以降 show tech-support コマンドがエラー終了する。
18	V01.00～V10.01	copyコマンドによる構成定義のCFへのコピー失敗時に不適切なメッセージが出力される場合がある。
19	V01.00～V10.01	copyコマンドで、running-configまたはcandidate-configをコピーした場合にエラーとなる。
20	V01.00～V10.01	telnet/sshでログイン後キー入力中にログイン前のシリアルコンソールから同時にキー入力されると、telnet/sshで入力したキーデータがコンソールに表示されたり、コンソールで入力したキーがtelnet/sshの動作に影響することがある。
21	V10.00～V10.01	シスログ出力時にダウンする場合がある。
22	V10.00～V10.01	WEB画面の表示メニューの「IGMPスヌープ関連-エントリ消費情報のクリア」操作でVLAN IDに4094を指定すると必ず入力エラーとなる。
23	V01.00～V10.01	noSystemErrorTextのMIB取得後にシステムダウンする場合がある。
24	V01.00～V10.01	discardコマンド実行後に構成定義を変更してcommitコマンドを実行すると、エラーが表示されてrunning-configが壊れ、通信できなくなるなど動作に影響を及ぼすことがある。
25	V10.00～V10.01	ARP認証で通信妨害を行うとき、Windows Vistaが端末の場合に通信できることが多い。